

研究活動ファイル

独自のテーマ設定に注目 ― 長期班、金融班

50年後の世界経済を予測

経済分析部では、長期的なスパンに立った予測も不定期に行っている。2006年春に発足した長期班は、1996年以来10年ぶりに世界経済を対象に編成された長期経済予測チームである。

10年もたてば、社会的な関心も経済的な背景も異なってくる。では、今回は何をテーマに取り上げるか。まず、テーマ探しと方法論の探索から始まる。要は、やりたいことを議論し、その上で必要なデータを探して手法も自分で考えるわけだ。何にも制約されずに自由に考えを進めることもできる半面、頼れるものは自分の手と頭だけという、不安と開放感がない交ぜになった作業が6月以降続いた。

研修生はもちろん、各メンバーにとってもこれから50年も先の遠い将来の経済予測をするのは初めての経験。通常の会議と平行して、経済成長に関する経済モデルの勉強会を開いたり、その前提となる数学の講義を受けるなど、週に2-3回は長期班関連のミーティングで埋まる日々が続いた。

その一方で、データ探しも1つずつ原典に当たって50年先の予測に役立つ時系列データの入手に努めた。各種のデータもそれぞれ癖があり、解

積が必要な場合も少なくない。というわけで、夏の暑い日、東京・渋谷にある国連大学の図書室を訪ね、国連が持つ膨大な経済社会関連データのガイダンスを受けて、日ごろの疑問をぶつけたこともある。

長期班を率いる小峰主査は約20年前にも当時の経済企画庁（現内閣府）から日経センターに出向して、短期班の主査を務めた経歴の持ち主。官庁エコノミストとして活躍した経企庁時代には、93年と94年には経済白書の執筆にあたった。

現在は法政大学で教鞭をとるとともに、日経センターの長期班の主査として活動しているが、第一線の忙しい役人生活でも欠かさなかった趣味といえば、本を書くこと。週末には筆ならぬキーボードを叩いて文章を書き上げるという。

一体、著書は何冊くらいなのか。答えは「両手で数え切れないほど。単著は13冊、編著も含めると20冊を優に超える」とか。著書の多さから、筆の速さも相当なもの



長期班の会議風景

いえそうだ。

経過を公表するのは1月半ばなので、正月休みもそこそこに長期班作業は最終段階を迎えている。

タイムリーな金融研究に取り組む

短期・中期・長期の各班のテーマはいずれも経済予測だが、経済分析部において、予測ではない特色ある研究活動を行っているのが金融研究班だ。99年度に発足して以来、報告書として「日本金融研究」を年に2回ずつ発行している。今年度で8年目となり、10月には第15回の報告書を取りまとめ、現在は第16回報告書に向けた研究を始めている。

金融研究班の発足当初から主査の任に当たっているのは、深尾光洋当センター理事長。05年に理事長に就任して以降も、「当センターでの仕事の半分は金融研究班主査としての活動です」と、深尾主査が金融研究班にかける熱意はいささかも変わるところがない。

金融市場・金融システムについての分析が金融研究班の目的だが、およそ「金融」に関わる分野ならば、メンバー各自が主体的に研究テーマを設定することができる。そして、どんなテーマを選ぼうとも、深尾主査は、豊富な知識と素早き確かな理解に基づき、多くの示唆をメンバーに与えてくれる。それを追い風にしながら研究を深め、報告書を執筆して世に問うことができるのが金融研究班の醍醐味である。もちろん、曖昧な事実認識や論理構成の不備には、主査から厳しい指摘を受けることも少なくない。

報告書「日本金融研究」では、独自の視点に基づく銀行の決算分析など定点観測として続けてきたテーマに加え、その時々々のタイムリーな問題を取り上げて検討してきた。この報告書が元になり単行本として発刊された書籍もある。最近でも、郵政民営化（第13回）、政府系金融機関（第14回）、住宅ローンと消費者金融（第15回）といった注目度の高い問題を次々に取り上げている。

毎週の金融研究会議は、メンバーからの進捗報告とそれに対する質疑が中心だが、太田康夫日本経済新聞社編集委員が参加し、最新の金融トピックについて、新聞記者の目から見た現状や背景などについて語ってくれている。平田英明法政大学助教授も、メンバーにとって心強い先達となっている。今年度は研修生が2名と例年に比べて小所帯だが、その分、深尾主査の目は隅々まで届いているようだ。

【長期予測班】

主査：小峰隆夫（主任研究員／法政大学教授）
総括：可部繁三郎（主任研究員）
コーディネーター：白井大地（経済分析部）
メンバー：牛山隆一／飯塚信夫（主任研究員）
研修生（カッコ内は出向元企業）：
小淵 剛（全日本空輸）
松尾洋平（日本経済新聞社）

【金融研究班】

主査：深尾光洋（理事長）
総括：乾 智里（副主任研究員）
平田英明（副主任研究員／法政大学助教授）
太田康夫（日本経済新聞社編集委員）
研修生（カッコ内は出向元企業）：
大久保淳一（国民生活金融公庫）
石崎 努（中小企業金融公庫）